

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272000112		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・美都②		
所在地	島根県益田市美都町山本イ2番地3 2階		
自己評価作成日	2021年 11月 3日	評価結果市町村受理日	令和4年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和3年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎職員は、人生の終盤での出会いを大切に思い、常に利用者本人が主体であることを念頭に置き、多くの笑顔が見られ、達成感を感じることができるよう努めている。  
 ◎職員間の連携がしっかりとでき、その輪で利用者の方々を支えていく事ができるように、日々努力している。  
 ◎グループホームが地域の中の一員であることを念頭に置き、地域との関わりを持ち、継続できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の静かな自然豊かな場所に位置しており、裏に小高い山が続いていることもあり、コロナに加えクマの出没で外出はしにくく散歩の機会もなかなか持てない状況にある。入居者の介護度は以前よりは軽くなっているが、精神面が不安定な方が多く対応に苦慮している様子が伺える。午後の時間の充実のために業務改善をしたり、簡単な体操や手作業や歌を歌うなどプログラム内容を検討したり、職員間でよく話し合われている。コロナの制限の多い中でも入居者の訴えがあればできるだけ早く対応するようにチームワークよく取り組まれている。2つのユニットを管理者1人で対応しているが、ケアの振り返りから職員個々の思いを感じたり、声掛けして話をする機会を作るなど、ストレスを溜めないようにして業務に打ち込めるよう配慮している。今後も今まで築いてきた地域との関係を大切に、認知症の施設として地域に貢献できるよう検討いただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内で共通の理念があり、毎月の職員会議で理念に沿ったケアができていないか振り返りをし、職員全員で確認、共有している。また介護事業部内でスローガンも設定し、周知、共有に努めている。	5項目からなる理念を毎月1項目ずつ取り上げそれについて職員個々に評価を行っている。全体的な評価に加え、入居者1人1人に対しても関わり方の評価を記入し、職員会議でまとめ話し合いをしている。1項目ずつ取り上げることで理念の共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、公民館掃除や地域の環境整備などへの参加を職員が継続することで、つながりを維持している。	以前は地区の行事への参加など行き来の機会を多く持っていたがコロナで途絶えている。公民館掃除に年2回、周辺の草刈りには年1回職員が参加し関わりを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホームの実績報告などを通し、認知症の症状やケアについて報告している。また地域ケア会議にてホームでの困難事例を提出、地域課題の抽出等に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や取り組み、事故・ヒヤリハット事例、それらを通じて気を付けている事困ったことを報告、意見交換をしている。出された意見などは職員に伝達、共有しサービス向上に活かしている。	今年はコロナの状況に合わせて集合して開催したり文書で行ったりしている。地区からは公民館長、自治会長、老人会会長、民生委員、第3者窓口の方に地域包括、市の担当課からも参加がある。文書開催の場合、入居者の状況を事前に伝え意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議を通して、ホームの実情や入居者の暮らしぶりや今後について報告し、助言をいただいている。また認定調査では本人の日頃の状況を詳しく伝えている。	運営推進会議には地域包括や市の担当課から参加があり、文書開催の場合も意見を得ている。入所の申し込みは会社が一括して受けているが、包括からは空き情報など入所の問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが2階のため、危険回避から階下への出入口は施錠している。家族の理解を得、職員も拘束という認識を持って行動している。3月毎に身体拘束適正化委員会を開催、テーマを決め勉強会をしている。	身体拘束適正化委員会を定期に開催し、内部での研修も実施している。虐待を含めて年2回自己チェック表で振り返りを行っている。ケアの場面で気持ちの整理がつきにくいなどの意見が出ることもあり、個別に話をしたり、毎日のミーティングでも検討するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止に関する自己チェックを職員全員が行い、自らのケアを振り返り、必要があれば管理者が面談を行っている。また職員会議で虐待防止についてマニュアル確認、勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について「人権憲章」としてマニュアル確認の読み合わせを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に利用料金、終末期や重度化への対応、契約解除などについて、十分に説明し理解を得ている。改定の際も、その都度家族へ説明し、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、家族アンケートや電話連絡で意見等を把握するようにしている。入居者からは日々のケアや関わりを通し思いを汲み取る努力をし、必要な時ホーム長会議で運営者に報告している。	年に1回の家族会は中止しているが、家族アンケートは継続。入居者の様子を知らせる便りを作成しており、普段の様子を写真に撮り、字の書ける方は一文添えている。本社からの通信は主に地域に配布し合わせて意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と何でも話し易い関係を築くように努めている。月1回の職員会議や毎日のミーティング等で意見交換をし、ホーム長会議にて運営者や上司に職員の意見・提案を伝えている。	管理者は会議や毎日のミーティングの際にもできるだけ本音に意見が言えるよう、思ったことは吐き出してもらおうよう配慮している。個人面談の時間は取りにくいだが、必要時と判断した場合は、声掛けして話をするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はホーム長会議や、折に触れて職員の状況・要望等を運営者に伝えている。また運営者は職員の資格取得のため、支援・貸付制度を設け、その意欲に応えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議でテーマを決めマニュアル確認、勉強会を行っている。コロナ禍のため、オンラインによる外部研修の受講も実施しており、今後も継続したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と毎月ホーム長会議での実績報告を通し、また地域ケア会議にて他施設管理者との事例検討を通し、情報交換、意見交換しその内容を持ち帰り共有、ケアに活かす努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の思いや事前面接での本人の状況、想い、担当ケアマネージャーから提供された情報、体験入居での関わりを通し、ご本人の気持ちを受け止め、安心できる声掛け、ケアができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み書の内容、ホームへの来所見学、電話相談などを通じて、家族の状況思いを汲み取る努力をし、真摯な対応を心がけ、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階ではご家族と今必要なケアについて確認し、不安の解消ができるように協力を得ている。職員も、ケアを通し観察、会話をし、気付きを共有し、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般において共に行動する事を基本とし、1人1人に役割を持っていただき、できる事に力を発揮してもらいながら、達成感を感じ、時に教えてもらい、喜び合える関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月のお便りに写真や近況を載せ送っている。電話連絡時に日々の様子や変化を伝え、時にご本人と会話していただいている。コロナ禍の中窓越し面会も実施し、関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中電話連絡時には会話を、またオンライン面会、窓越し面会もできるように対応している。	オンラインや窓越し面会は可能になり、定期的に面会する家族もあるが、混乱を招くと考え遠慮する家族もある。県外の家族の窓越し面会が可能になったが、間隔が遠のいた為や声が聞きにくいこともありわからなかった。現状でも何とか関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を毎日のミーティングや職員会議などで共有、理解し、席の配置等には配慮している。また家事、手作業等を通し、利用者同士が関わり合うことができるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、他施設に入所されても、これまでの生活が継続できるように、また家族との関係性にも配慮し、必要に応じて情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、表情等を通して本人の思いや意向を、職員が汲み取るよう努力している。表現が困難な方は、その方が穏やかに過ごされている環境を職員全員で共有、対応を心がけている。	認知症状が進んでおり、夕方近くになると帰宅願望を訴える方が多くある。業務改善を行い午後からの時間はできるだけ職員と一緒に過ごせるようにしている。手作業や音楽を聞いたり軽く体を動かしたり、落ち付ける居場所を作るよう対応を検討している。	様々な方法で入居者個々の思いの把握に努め穏やかに過ごせるように検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や、様々な機会を捉えて家族から入居者のこれまでの人生、生活歴についての情報を知る努力をしている。また毎日の生活を通して、本人からお聞きするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック(検温は1日2回)や、申し送り、記録、ミーティング、伝達簿や職員会議などで意見交換や気づきの共有をし、心身状態を見極め、現状の把握と対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を聞き取りまた推察し、家族には電話連絡で家族の要望、意見も聞き取り、介護計画を作成している。毎月アセスメント、モニタリングを行い、職員の意見、気づきも取り込んでいる。	担当を中心にモニタリングを行っており、計画作成に繋げているが、コロナの為関係者が集まった形での担当者会議はできていない。事前に電話等で意見を聞き職員で開催し了承を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者のエピソードなどを記入しており、特にご本人の言葉を大切に記録している。それらについてミーティングや職員会議などで意見交換しケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族には入退院の対応や、通院介助対応を臨機応変に行っている。その他の要望に対しても、本人家族の状況を考慮しながら、必要に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、参加していた地域行事は休止や中止となり、地域の商店や道の駅での買い物、音楽療法も困難となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医の継続と往診をお願いしている。困難な時は協力医の中から決めていただいている。体調不良などにより急な受診が必要な時、家族が受診困難な時は職員が速やかに対応している。	家族対応で受診を続けることも、往診可能な協力医に変更することも可能になっている。協力医については緊急時の対応もあり安心に繋がっている。精神科の受診を継続している方も多くあり、職員が受診介助を行うことで日頃の様子が伝わるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護があり、職員の気づきや健康状態や心身の状況で気になることを看護師に報告相談している。看護師は必要と判断すれば医師に連絡し、医療との連携をはかっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を病院の方に提出している。コロナ禍のため面会は不可だが、病状について担当看護師や相談員、家族からも情報を得、職員全員で共有し、退院支援、退院後の準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、入居契約時に家族に説明、意向を聞いている。本人の状態に応じて、その度家族に説明、相談し、主治医との連携のもと、可能な限りの対応をしている。	以前は重度の方がおり看取りを行った経験はあるが、段々と平均介護度も軽くなってきておりここ2年は看取り対象者はない状況。今後も本人、家族関係者の要望がある場合には、前向きに検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日午前、午後2回の検温を行い、体調変化の察知に努めている。また、急変時マニュアルや急変時対応について勉強会を行い、周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者とともに年に2回火災総合避難訓練、年1回非常災害避難訓練を行っている。ホームが2階にあることや土砂災害のイエローゾーンに位置していることで、地域との連携が必要となっている。	施設の裏に小高い山があり土砂災害のイエローゾーンになっている。地域の方々からは情報を共有したいと声があり、運営推進会議への参加を得ていい関係性が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い環境という事もあり、どこに居ても他者の目にも、耳にも付き易い。そのためプライバシーに関わる言葉かけや、対応については、特に配慮して行っている。	既存の建物を利用しており、ユニット全体があまり広くないため、トイレや入浴等のケアの声掛けの際は、場所を変えてから伝えるように注意している。相手の立場に立ってどうしたらいいのかを考えることが、プライバシー保護になるのではと話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答え易かったり、選び易かったり、納得しやすかったりする声かけ、働きかけをするように努めている。また日々の生活の中で会話や表情、反応を読み取り本人の希望を把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、それに、職員が縛られることなく、入居者のペースや希望、また非日常の楽しみによって意欲的で、笑顔のある生活ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブラシを本人にわかるように用意し、起床時は自ら整容していただくようにしている。毎日化粧される方には化粧品の配慮や、眉墨で眉を整えられる方には要望時での対応等、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の嗜好や食べられない食材、嚥下の状態に合わせた食形態を共有している。調理、盛り付け、トレー拭き、片付け等それぞれできることを職員と一緒に会話を楽しみながら行っている。	以前は食材の買い物と一緒に出かけていたが今はできないので配達してもらったり、料理が不得意の職員がいることもあり1品は湯せんにかけるだけの副食を利用しながらも、あと2品は入居者と一緒に作り、食事と一緒に食べて楽しい時間を過ごせるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分摂取量を記録しており、本人が食べやすい食事形態、食事量、食器の形、重さ等配慮している。主治医による血液検査から栄養状態を把握、栄養士より指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし状態に応じた口腔ケアを行っている。就寝前は義歯洗浄液に浸している。また口腔内の清潔保持や適切な口腔ケア等の口腔衛生管理指導を歯科医より受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて入居者の方々について排泄リズムを把握し、トイレでの排泄が継続できるように、声掛け、誘導している。声掛けは本人の自尊心や他者の目や耳に配慮して行っている。	紙パンツにパットの利用者が殆どで自立の方、誘導、確認の必要な方と個々に合わせた援助をしている。排便処理が困難になったり、布パンツで常に尿臭がするようになる前に紙パンツに移行している。排泄面での不快感を感じることがないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の方々の最終排便日を確認し、トイレで排便の働きかけをしている。毎朝ヨーグルトと果物の提供や、水分摂取量が少ない方には水分補給をしていただき、スムーズな排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からの帰宅願望や不穏を避け、午前入浴をしている。対応については職員全員で共有し、入浴したくない方にはシャワー浴、清拭、足浴、あるいは更衣だけでもできるように支援している。	一般的な家庭浴槽。1日3人のペースで午前中に入浴するようにしている。午後になると落ち着かない方が多いので、なるべく職員が一緒に過ごせるように合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は一人一人の様子を見て休息の声掛けをし、それぞれのペースで居室で過ごしていただいている。夜寝る前には温かい飲み物や、室温調節をし、気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を一人ずつファイルし職員はいつでも内容を把握できるようにしている。朝昼夕食後薬の色分けと日付の記入を職員全員ですることによって薬への理解を深め、服薬ミスを減らす努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の意向や、役に立ちたいという思いに添えるよう、日々の暮らしの中でできる事をしていただき、感謝の言葉を伝えている。ドライブ外出や食べる楽しみを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は限られるが、天気の良い日には散歩、ひなたぼっこ、時にドライブ等をしている。ゴミ出し等少しでも外の空気を吸うことができるよう、できる範囲での支援をしている。	施設周辺でクマの出没が相次いでおり、警察から外に出ることは控えるように言われているため、近隣の散歩や外気浴もできていない。2階ベランダに出て外を眺めたり、車で短時間のドライブを楽しむ程度となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことはご本人とご家族の希望と判断に任せている。ご家族の希望とご本人の安心のため、お金を財布に入れ所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状に自筆で名前と一言書いていただいている。また宅配便が届けば、職員が取次、お礼の電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い環境のため、環境整備や、テレビの音量、職員同士の会話などには気を配っている。またホールには写真を飾り、季節により内容を変更し、時に会話のきっかけとなっている。	民家の中にあり前に道路もあるが交通量は少なく静か。こじんまりとしているのでいつもみんな一緒にアットホームな感じ。窓やベランダに出ると外の景色から自然の移り変わりを目にすることができるし、壁にも季節の花の写真を飾って楽しむようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダには自由に出入られるようにし、長椅子を置きひなたぼっこ等でどなたも過ごせるようにしている。また、それぞれの居室に集まり談笑されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や使い慣れた寝具を使っている。ペットの向きなども自宅と同じになるよう配慮している。	居室には収納スペースが無い為、倉庫で管理し季節に合わせて入れ替えしている。タンス、物入、テーブル、テレビなどが持ち込まれている。花の好きな方は飾ったり、物取られ妄想の方にはタンスに近寄れないよう工夫したり、合わせた部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状況や、会話などから汲み取り、混乱や不穏の原因となるものを見極め、その時の状況に合わせて配置換えや席替え、環境整備を行い、安全に、安心して生活できるよう配慮している。		